

憎しみの霊

2012年9月21

シムカとベラ・ダヴィドヴ

世界中で、アメリカ人によって作られた反イスラム映画「イスラム教徒の無知」(アメリカやイスラエル政府によって作られたのではなく、エジプト系アメリカ人によって制作)により、混乱や怒りが渦巻いています。

バングラディッシュの首都ダッカでは、10,000人のイスラム教徒がデモ活動を行い、アメリカの旗を燃やし、踏みつけました。リビアのベンガジにあるアメリカ領事館が攻撃され、大使と他の3人のアメリカ人が殺されました。トリポリにあるケンタッキー・フライドチキンの店は放火され、略奪されました。カイロでは、アメリカ大使館の外で数千人がデモを行い、「オバマ、オバマ、我々は皆オサマだ」と叫びました。テヘランでは、金曜日の礼拝の後、数千人が「アメリカに死を、イスラエルに死を」と叫びました。

アフガニスタンでは、東部都市ジャララバードでのデモ隊は「アメリカに死を」と叫び、ハミッド(訳者注:ハーミドあるいはハミド)・カルザイ大統領にアメリカとの国交を断絶せよと要求しました。パキスタンでは、イスラム強硬派はスローガンを叫び、プラカードをかかげてアメリカを非難しました。トルコでは、トルコの主流イスラム主義政党であるサーデット党(至福党)によって組織された数百人の人々がイスタンブールのベヤズット地区に集まり、デモ活動を行いました。

このような憎しみを起こさせるようなことについて、一体イスラエルはイランに対して何をしたのでしょうか。一体アメリカはこれら中東諸国にいる数千人のイスラム教徒に対して何をしたのでしょうか。これは理論的でしょうか。これは理にかなったものなのでしょうか。この憎しみは低予算 YouTube 映画で始まったものではありません。そこには霊的な理由が背後にあるのです。

イスラム教徒によって制作された YouTube 上にある反ユダヤ主義の嘘に対してユダヤ人による暴動は起きていません。最近、イランのテレビチャンネル 1 は反ユダヤ映画「土曜日の狩人」を上映しました。そこには、目を見開いたラビが彼の若い孫息子に大量殺戮者になるよう教えています。ユダヤ人は聖書を改ざんし、キリスト教徒とイスラム教徒を墮落させる者として、それによって男が女に変わり、女が男に変わるというように、描かれています。

この映画はムハンマド・カフレマニ(訳注: Mohammed Qahremani の日本語表記はありませんので、推測でカタカナ化しています)によって昨年制作され、テヘランの映画フェスティバルやイラン全土の映画館で上映されました。イスラム世界において、このような反ユダヤ主義、反イスラエル映画は頻繁に政府がスポンサーのメディアによって制作されます。しかし、「イスラム的正しさ」二重規範によ

って、イスラム的なものは何であっても、たとえ穏当な批判でさえ暴力の応酬に遭い、(訳者加:イスラム教徒による)はるかに中傷的、そして悪意に満ちたユダヤ人(とりわけ!)やイスラム世界にいるキリスト教徒に対する描写に、世界のその他の国々から一切の声(訳者:非難などの)が挙がらないのです。より多くの人々が目を覚まし、これらの偽りを吟味するよう、祈りましょう。

ポーランドでの宣教活動

ソロモン・イントレーター

最近、私たちの若者グループは諸国に対して心を広げるよう神に導かれています。そして、ヨーロッパへ短期旅行をするための効果的な方法を形成しました。私たち6人は、南ポーランドへ1週間ユダヤの例祭の間旅をします。そこで私たちは全国規模の若者の会議や宣教旅行、そして集中した個人的な祈禱において奉仕し参加します。この時、ポーランド国内においてユダヤ人やイスラエルとの関係を含めて何かが変わっています。どうか、ポーランド国家が神の愛とメシアにある自由を経験するよう、私たちと共に祈って下さい。

大贖罪日

アハヴァット・イエシュアといくつかのエルサレムにあるCongregationのメンバーはこの火曜日～水曜日9月25日～26日に、ヤッド・ハシュモナに集まってヨム・キップール、聖書的な大贖罪日をお祝いします。私たちは世界中にいるすべてのクリスチャンやメシアニック・ジューがこの日に共に断食、悔い改めそして執り成しの祈りに加わって下さるようお願いいたします。

ヨム・キップールはトーラーの祭司カレンダー(訳注:宗教暦)の中で最も聖なる日です。これはヘブライ預言書に載っている「大いなる恐るべき YHVH の日」のひな形、あるいは類似です。これら二つの日は、新約聖書にあるイエシュアの再臨である「その日」に類似しています。これらはすべて同じ終わりの時のイベントを指し示します。

現代のイスラエルにおいて、大贖罪日は1973年のヨム・キップール戦争勃発という二重の意味を持つと考えられています。これはまた、すべての諸国が集まってエルサレムを攻撃するという預言的な「その日」をイメージするものです。

贖いの血

アシェル・イントレーター

イエシュアが十字架で亡くなった時、主の脇腹は貫かれ、血が吹き出しました(ヨハネ 19:34)。主の血は、古代イスラエルにおける、大贖罪日を含むすべての血の犠牲の成就を表します。聖書はこの血の物理的側面について強調せず、むしろ霊的な意味を指し示しています。

ヘブル書 9:14

まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするのでしょうか。

私たちは皆罪を犯しました。すべての罪は破壊をもたらします。それゆえ、私たちは皆破壊されてしまったのです。究極の破壊は死と破滅です。しかし、そこにはまた内なる霊的な、心理的な破壊があります。イエシュアの血が贖いとってくれるのです。それは - it pays the price for 死と破滅の報酬を買い取ってくれるのです。また、それには内なる心理的な破壊をも癒やしてくれるのです。

霊において、イエシュアの血は永遠です。それには強力な霊的効果が常にあり、今でも有効なのです。人の基礎となる部分は霊(ギリシャ語:プニューマ *pneuma*) 魂(プシュケー *psyche*)、つまり良心です。良心は神によって創造され、正しいものと誤ったものの違いを見せるものです(ローマ 2:15)。良心(スニデイシス *suneidesis*) は神と共に「倫理的な良心」を与えて下さるように創られたのです。

人の良心は罪によって歪められ、汚されました。それはまるで先の曲がったコンパスのようです。これは危険なことです。それは、良心は聖なる霊の影響を感知する基礎となる道しるべだからです(ローマ 9:1)。

イエシュアの血なくして、人の良心は、罪によって入ってきた罪悪感を何とかして外に出そうと必死で努力します。このような見当違いの努力は宗教的儀式、倫理的相対主義、自己耽溺、自己義認、自己非難、または終わりのない心理カウンセリングへと陥らせます。

しかし、イエシュアの血はこれらすべての「無意味な努力」から私たちの良心を清めることができ、健康な聖なる生活へと私たちを解放してくれます。清い良心は幸福な生活(ローマ 14:22)と自信に満ちた生活(1ヨハネ 3:21)を作り出します。このヨム・キップールの日、イエシュアの血の霊的な力があなたがたの心と魂に触れ、癒やしますように。

9月のYouTube上のメッセージ

栄光の王: イエシュアはエルサレムから世界を支配するために、栄光の王として再臨されます。こちらを[クリック](#)してアクセスして下さい。